

皮膚が赤く盛り上がり、その上に白いフケのようなものが付着して、ぼろぼろと剥がれ落ちる乾癬という皮膚の病気があります。日本では現在、人口の0.150.2%、約10万〜20万人の患者さんがいると推定されています。乾癬の患者さんの中には皮膚だけではなく、関節にも症状が出る方がおられ、近年そ



徳島大学病院皮膚科

広瀬 憲志 総務医長

日常生活が著しく障害されることもあるため、早期に治療することが大切です。

治療としては内服薬（非ステロイド抗炎症薬、免疫抑制剤、抗リウマチ薬）、注射薬（生物学的製剤）がありますが、最近では関節破壊をきたす前の早期から、より効果の高い生物学的製剤を選択することが必要であると言われていいます。元々乾癬があって、指の腫れや関節の痛みのある方、一度、皮膚科やリウマチ科、整形外科の先生にご相談ください。

## 乾癬からの関節の痛みに注意を

の割合が増えています。特に頭皮や爪に乾癬の症状がある方に多い傾向があります。関節の症状は手足の指の腫れ、痛みで生じることが多いですが、ときに首や腰、股や膝など大きな関節に炎症が生じることもあります。関節症状の生じる時期ですが、皮膚症状の後に出る場合が大多数です（皮膚症状と同時期に出ること、まれに皮膚症状より前に出現することもあります）。患者さんご本人も、「まさか関節の痛みが、乾癬からとは」と気付かれていないケースもあります。症状が進行すると関節の破壊や変形をきたし、

最後に、最近の外來での一こまを紹介いたします。約20年前から乾癬のある患者さんが、この2カ月間、関節の痛みが徐々にひどくなり仕事がままならないと訴えて来院されました。毎年、阿波踊りで太鼓をたたかれています。ところが、昨年は症状が重く、ドクターストップをかけました。ものすごく残念がっていたのを覚えています。治療開始後、関節症状・発疹ともに軽快しい状態を保っています。先日患者さんから「先生、今年はたたいもええかな？」との、少し遠慮がちな問いかけに、僕の返事は「無理しない程度なら、いいかな」。その時のニコッとした笑顔が忘れられません。